



森と海の自然科

2023.2.14

日本遺産「龍田古道の心臓部」亀の瀬“」

探訪の報告

1. 日時；2023年2月9日 10時00分
2. 集合場所；近鉄大阪線 河内国分駅改札口
3. 参加者：浅野 伊藤春 大石 河合 木村 権野 杉谷 荘村 東川 西井 秦 福嶋明 福嶋昭 藤井 万井 森 倭 山本（18名）
4. 行程

10:00 河内国分駅集合

晴れ～曇りの天気予報でこの時期にしてはさほど寒くもなく歩くのに良い天気でした。駅舎を出て大和川の国豊橋そばに「奈良街道」、その先に「問屋場亭」の説明書きがあり古道の様子がうかがわれる昔作りの家がそこここに見られた。

10:30 国分神社。神社の脇を上ると松岳山古墳がある。

少し下っていくと国道25号線に出て工場の間を曲がると夏目の渡し跡。つり橋はよく揺れた。

11:00 少し休憩の後、青谷遺跡跡を左に見ながら陸橋を渡る。

11:30 大和川そばのJR河内堅上駅に到着。

12:00 亀の瀬地すべり歴史資料室到着、室内で昼食。

12:40 資料室では地すべり地帯の様子、今までの被害状況。

また発生の要因、地形を見ての災害予測や地すべりを防ぐための取り組み等々の説明を受け、その施設見学にトンネルへ。

14:00 竜王社、亀石見学。大和川の亀の瀬は浅く、船は通れないため、荷継ぎ問屋があり、牛馬に荷物を積み替えて運んだそうです。

14:56 峠八幡神社

15:15 関地蔵

15:20 磐瀬の森

15:25 JR三郷駅で解散

希望者は龍田大社へ

道端の草木・虫

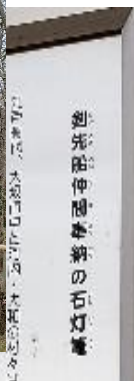
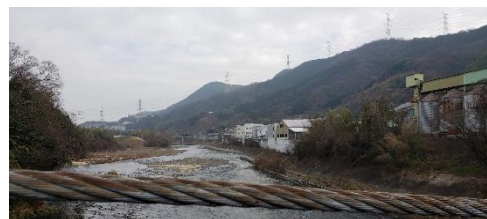
リュウキンカ



ナナホシテントウムシ



ロウバイと
枯れた実



亀の瀬地すべり歴史資料室とトンネル内見学（大和川河川事務所所管施設）



地すべりは4万年前から起きていたとみられる。

明治以降では3回

1931~32年の地すべりでは山の斜面が30m水平方向に動く。

地すべりでトンネルがつぶれ、その両端付近に仮設の亀の瀬西口駅と東口駅を作りその間を歩いた話。

亀の瀬で地すべりが起きれば、大和川が隆起し、奈良側、大阪側ともに大きな被害が出る。等々いろんな話がありました。

トンネル内の見学（排水トンネル）



- ・トンネル内の温度は15~20度位

- ・無色透明の水が流れる。

- ・トンネル内には水抜き管の先が各所に出ている。

水路がその時々水の道に当たればぽとぽと流れ落ちてくる。水路の水には鉄分が含まれており水路が茶色くなっていた。

- ・54本の井戸と7kmのトンネルで、水深1mの小プール2杯/日の水を大和川に流している。



- ・6~7月には水路があふれるくらいの水を流す。

- ・水は超硬水で石灰を含み、水抜き管の内側からぽとぽと落ち固まっていた。



管の内側に積もっていた石灰の塊



突然現れたトンネル（旧大阪鉄道亀瀬隧道）

うずもれていたレンガ作りのトンネルが見つかる。



レンガ積みのトンネルはイギリス積で段ごとに長短があり、天井は長手積という積み方。また、滑らないように、水を入れないようにレンガを漆喰でつないでいる。

レンガ壁はSLの煙のススで黒くなっている。



資料室の前。原っぱには所々水抜き穴があり、
水を流す溝もありました。

一度訪れてみたかった所。でも、近くて遠い亀の瀬でした。やっとたどり着きました。
地すべりという言葉は何度も聞いていながら山崩れと同じようにとらえていました。
地すべりがなぜ起こるが調査し、そしてその対策を立てることにより、災害から人命が守られる
という事実を見せていただきました。

突然の災害と言われているものでも、今までの地形やその移り変わり、開発の状況などを調査し、見
直すことにより、災害を食い止める、そして命を守る方法が見つかるのかなと、今回の亀の瀬の見学で
学ばせていただいたように思いました。

次は元気を出して、案内ガイドさんの言葉にあった明神山にのぼり周りを見渡してみたいな〜と・・・
(担当 B グループ 案内：荘村・権野、写真：大石・福島昭・秦、記録：木村)

